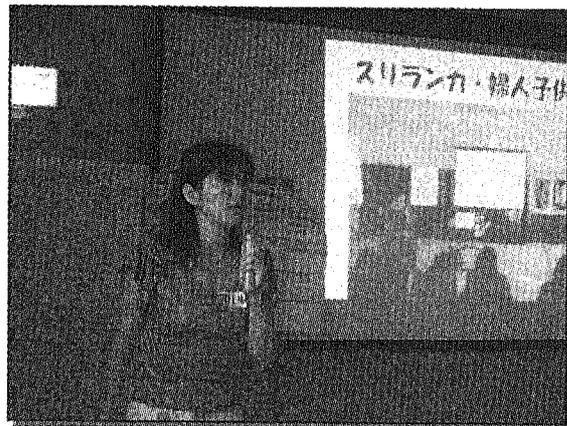


(1) JICA TIME 「つなぐ」

◆ 岐阜県国際協力推進員 古田敦子さんから

- 前回の静岡県国際協力推進員につづき、今回は岐阜県国際協力推進員の古田より、「つなぐ」をテーマに、JICA国際協力出前講座がどんなものか、岐阜県の平成14年度の実績を、パワーポイントを用いて、各人の講座内容を紹介。
- その後議員氏より、東海4県でJICA国際協力出前講座の依頼170件あったこと、岐阜県出前講座研究会が2月に1回開催していること、協力隊OB/OGを対象に、伝え方講座を6月に開催し、ミスマッチがないような検討をしていることを紹介。



▲ 古田さんの発表

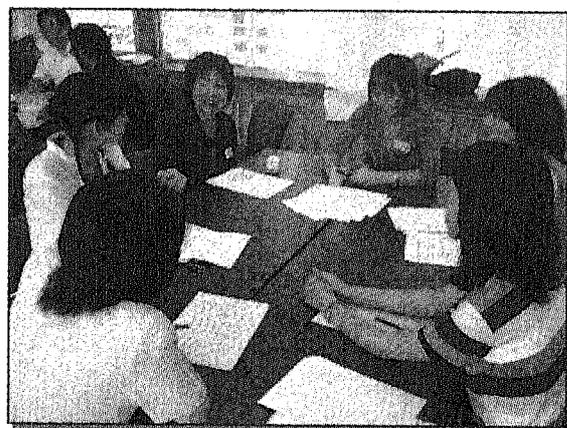
(2) 前日のふりかえりと本日のねらいの確認

◆ 前日のふりかえりと本日のねらいの確認

- 昨日は流れのあるプログラムを体験した。本日は、①参加型の手法と流れのあるプログラム作りについて、②開発教育・国際理解教育はどんな可能性をもっているか、③どこで提供できるかを考える。

◆ 前日の流れのあるプログラムのふりかえり

- 前日の流れを書いたレジюмеを読み、前日体験してみてわかったこと、流れのあるプログラムとは？についての感想を語り合う。
- 昨日参加しなかった人は、参加していた人に質問してもよい。
- グループを代表して1人に話し合ったことの紹介をしてもらう。



▲ グループで前日の流れをふりかえる

- 豊かさのところ、貧しさ、豊かさの実感がない。それだけ経済的に豊かも。途上国の方は絶対的貧困、職場がほしいという状況下で、日本人のこんな気持ちは理解しがたいのでは？ 選択する余地がないのではと感じた。
- わかりやすかったのが、コーヒー栽培のシミュレーションゲーム。いかに不公平だったかということが体験をもってわかった。他のアクティビティで表にまとめるのは難しかった。
- シミュレーションゲームでの体験・気づきがあったからこそ、最後のまとめまを考えらたのではないかと思った。最初概念を考えて、シミュレーションで考え、まとめるという流れがあった。シミュレーションはやってよかった。
- アクティビティが沢山だったので、一つひとつをふりかえる時間が少なかった。ねらいは伝わった。
- 流れは理解できたが、「日本人が今まで身につけてきたものと今後身につけたいもの」の表を埋めるのに難しさを感じた。

(3) 参加型の方法は何のため？ 参加型・講義型の比較（メリット・デメリット）

◆ 参加型のプログラム作りについて

★ ファシリテーターより★

- 参加型のプログラムの作り方は様々。
- 大別して「気づく・理解する」ためのプログラムと「課題解決・未来を築く」ためのプログラムがある。
- 対象、時間によっても中身が異なる（今回は指導者研修ということで濃い・高い目標設定）。
- 学校ではこのまま同じプログラムで応用提供できるとは限らない。かみ砕いたり、応用したりする必要はある。
- 今回提供したものが最善のプログラムでもない。ふりかえり改善し学びつづけられることが大切。
- 流れのあるプログラム＝アイスブレイキングから、いきなり「日本人が今まで身につけてきたものと今後身につけたいもの」の表はできない。貧しさ、豊かさの概念について考える機会（参加者自身が発想できるような）→具体的に貧しさに陥るシミュレーション→貧しさを感情として理解する→ゲームの体験を通して考える「貧しさに陥る原因」→「貧しさ」という課題を解決するためには何が必要か？ 順を追って考える／起承転結（例えば、前提となる問いかけ、視点を広げる・視点を変える、結論となるような共通点の模索）のストーリーを作る／同じようなアクティビティを続けられない／考えるパターンにも多様性を持たせる などがポイント。
- 原因を考え出していくプロセスは課題解決に役立つ。
- 開発って何だろう？ 開発教育の開発って？ もともと持っているものを引き出す

◆ 参加型の方法は？何のために？

- 頭をやわらかくするためのお題を出す。
- 参加型VS講義型（一方向で知識を伝達）、それぞれの「特徴」（メリット・デメリット）を考える。
- このアクティビティは「対比して考える」という範ちゅうに入るもの。
- できるだけ沢山模造紙に書き出す。7分間で。正解はない。
- 以下のとおり発表し、まとめる。

＜参加型のメリット・デメリット＞

参加型のメリット	参加型のデメリット
<ul style="list-style-type: none"> • いろんな人の意見や考えが聞ける。 • 思わぬ意見が出る。 • 自分が体験することで心に残る。 • 自分の中から開発される。 • 楽しい。 • 眠れない。 • 興味のない人も参加できる。 • 知り合いが増える。 • 仲間の芽を発見できる。 • ファシリテーターも学べる。 • 自分のこととして考えられる。 • 個人の意識レベルがFにすぐわかる。 • 答えがない。 • アクティビティの内容に限りがある。 • 考える力がつく。 • 自分で行動できる。 • コミュニケーション能力があがる。 	<ul style="list-style-type: none"> • Fの思うペースで行えない。 • いろんな生徒がいる中で参加しない生徒がいると難しい。 • 段取り、準備が大変。 • 臨機応変に対応する必要がある。 • 参加者にエネルギーがいる。疲れる。 • 雰囲気づくりが大変。 • 楽しいだけで終わるかも。 • ファシリテーターの能力次第。 • 答えがないので空中分解するかもしれない。 • 経験したことがあるようなシミュレーションゲームだと新鮮味がなくなる。 • 途中退出や欠席するとわからない。

＜講義型のメリット・デメリット＞

講義型のメリット	講義型のデメリット
<ul style="list-style-type: none"> • 先生の話すペースでできる。 • 大勢でも対応が可能。 • 短時間でできる。 • スペースが狭くてもできる。 • 話がよければ熟考することができる。 • 効率的に教えられる。 • 基礎的な知識が得られやすい。 • 答えがある。 • いくらでも話題はある。 • コピーすればだいたいわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 忘れやすい。 • 疲れないけど眠くなる。 • 受講者によって差ができる。 • 他の参加者を知ることができない。 • 座っているので尻とか腰が疲れる。 • 講師へのフィードバックがないので講師の成長を促せない。 • 集中力が続かない。

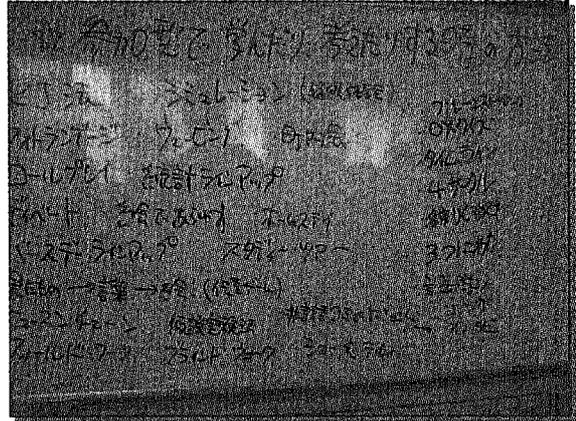
★ ファシリテーターより★

- 参加型・講義型、どちらでもメリット・デメリットがあり、限界があると知っていることが大切。
- デメリットをカバーするためにはどうするか、を考えることも重要（例：参加型と講義型の併用）。
- 参加型のよさを生かして、学び会えたらよい。

(4) 参加型の手法

◆ 参加型の手法の洗い出し

- よく使っているのはみんなの多様なアイデアを分類し整理し共有しやすくする「カード式整理法＝K J法」。
- 他にはどんな参加型の手法を知っているか、体験したことがあるか、書き出してみる（昨日はシミュレーションゲーム。それも参加型の手法の一つ）。
- 以下のとおり発表。



▲ 発表した内容を白板に書き出し共有

○×クイズ/フォトランゲージ/ブレインストーミング/ウェービング（蜘蛛の巣）/
タイムライン/ロールプレイ/部屋の四隅/統計ラインアップ/名刺で自己紹介/
ディベート/考えたことを絵にする/ランキング/マトリックス/バースディラインアップ
（言葉を使わずに誕生日順に並ぶ）/ハンガーバンケット/見たものを言葉で伝えて絵にする/
三者択一（アイスブレーキングで）/ヒューマンチェーン/ポスターセッション/
外に出かけて体験（フィールドワーク）/バトンタッチ式の発表/スタディツアー/語学研修/
ホームスティ/町内会/パネルディスカッション/仮説実験（理科でやっている、真空のボンベ
と水素を入れたボンベどちらが軽い？）/エンカウンター的手法/ブラインドウォーク/
五感の一つを隠してコミュニケーション/木の絵を描いて心理をはかる/インタビュー/
ショー&テル（何かを見せて語る）

★ ファシリテーターより★

- 上記にはアクティビティ名と手法が混じっている。何千もあるアクティビティを12の方法*にまとめてみたのがERIC*（(特活) 国際理解教育センター）。
- 重要なのは、自分なぜこの手法を使うのか？ どう使うと効果的かを理解していること！。

* 12の方法：『参加型で伝える12のものの見方・考え方』1997年、編集・発行：国際理解教育センター（ERIC）を参照のこと。

* ERIC：ホームページ <http://www.try-net.or.jp/~eric-net/> 参照のこと。

(5) 国際理解教育・開発教育は、何のための教育か？

◆ 作業内容

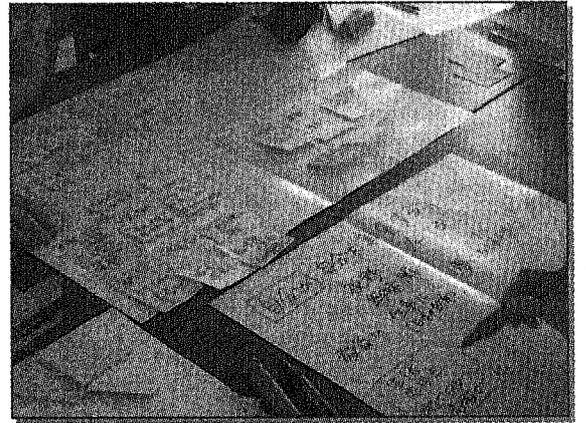
- 1日目に考えた、「20年後の望む未来の姿を実現するために」、教育は何ができるか？
- 国際理解教育・開発教育は「誰の、何が、どうなる」、「誰が、何を、どうするようになる」教育か？
- 3種類の色つきカードを以下のように使い分け、まず個人で書き出す。

ピンク	黄色	緑
〇〇の	〇〇が	〇〇になるための教育
〇〇が	〇〇を	どうするようになるための

- 次に、グループで、模造紙（ポスター裏紙）に、同じような内容のカードをまとめるなどして、各自の考えの共有をする。
- 最後に、合意できるものだけ、文章化して模造紙にまとめる。



▲ グループでカードをまとめる



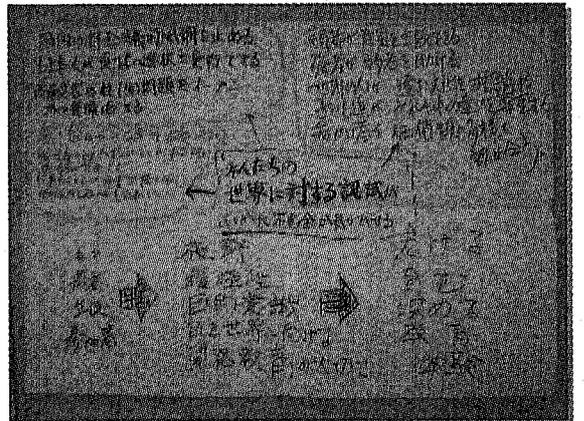
▲ まとめたカードから文章化する

◆ 発表

- 各グループで合意した「国際理解教育・開発教育は、何のための教育か？」について、ギャラリー方式で、全体共有を図る。
- その結果は次ページ以降のとおり。



▲ ギャラリー方式で全体共有



▲ まとめた模造紙の例

<グループ1のまとめ>

私が	私を あなたを	知る 思いやる
私たちが 児童が	家庭の問題を (に) 地域の問題を (に) 文化の問題を (に) ~ 世界の問題をバリアのない社会を	解決する 考える 気づく 築く
在住外国人の	理不尽な日本での生活環境を	同じ市民・地球人として共に改善し ていく
世界中の全ての人々が 人々の暮らしが 地球が	他人毎ではなく、自分たちのこととして考えられるようにする 豊かになる/大切に愛する 相互関係で成り立っていることを心から理解する	

<グループ2のまとめ>

自分自身が 教師が 企業が	開発とは何かを	知る
子どもが 親が 自分自身が	より多くの人のことを 不公平を 差別を 偏見や無知を	考えるようになる なくす
みんなが	幅広い視野・考え方・価値観を コミュニケーション力を 豊かさを (物・心)	身に付ける 手に入れる
途上国の人々の 子どもの	生命が	守られる
先進国が 企業が	自己中心的な考え方を	改善する なくす
みんなが	生涯教育 (学習) に	参加する

<グループ3のまとめ>

家族が	省エネ生活を	習慣化する
興味関心のある人が	国際理解を	周りに広める為にもっと理解する
興味関心のない人が	国際理解は	自分にも関わる問題として理解する
子どもたちが	本当の豊かさを 学び方を 平和の大切さに 人との関わり方に	伝える 考える 気づく
地球人が	隣人や地球環境を	思いやる
私たちが	夢・目標を	持つ
みんなが	幸せに	生きる
一人一人が	意識を持って	自分でできることをする
地域の人		コミュニケーションを図る 仲良くする

<グループ4のまとめ>

異なった人々が	お互いを	尊重しあう
いろいろな人々が	知恵を	学び合う
日本国民が	日本として行う国際協力・ODAについて	当事者として理解する
学生が	人生の目標を	見つける
高齢者・シニアが	必要とされ	生き甲斐(役割・場)を見つける
うちの娘に	思いやりの心を	持ってもらう

<グループ5のまとめ>

自分が	自分を	尊重する
教員が 生徒が 高校生が 次世代を担う若者が	視野を 興味関心や夢を 仕事を 日本の教育について 世界の現状を 日常生活で 自分の将来を	広げる 持てるようにする 知る 考える 知り、自分で行動する 思いやりのある行動をする 自己決定する
子どもたちの 子どもたちが	教育が 違いを	平等になる 知る・気づく・認める
女性の	人権が	意識されるようになる
みんなが 市民が	環境を	守る 配慮した行動をする
世界中すべての人が	幸せを	築くため

<グループ6のまとめ>

私たちの	世界に対する認識が	いかに不完全かに気づく
国内の	拝金主義的風潮を	止める
日本人が	よりよい選択を	実行できる
高齢者の	性(生)問題を	オープンにする
途上国の	子どもたちが	学校へ行く
自分の	身の回りのものが	どこから来て誰が関わったのかに気づく
日本の	子どもたちが	地球規模で考え、自分の生き方をふりかえり、行動していく
弱者が	意見を	主張できる
強者が	弱者を	助ける
世界の人々が	違った文化を	理解する
子どもたちが	それぞれの違いを	尊重する
参加者が	価値観の多様性を	認め合う
我々・若者・生徒・参加者が	視野・積極性・目的意識を 開発教育の大切さを	広げる 育む 深める

<グループ7のまとめ>

子どもたちの	大きな夢や希望が	世界で叶う
先進国の人も途上国の人も	地球の未来を	考える
世界中の人たちが	人との違いを尊重し	健康で平和な生活をしていける 自分に自信を持って生きていける

<グループ8のまとめ>

私が・子どもたちが・全ての人が	開発に関わる問題を	伝える・広める・考える
先進国の企業が	心の豊かさを	育む
ここにいる私たちが	未来を	構築する
お互いが	他者との違いを	受け入れる・知る・超えて協働する
生徒が・途上国が	自らの夢を	実現させるための手助けをする
みんなが		幸せになる

◆ 感想

- 本日をふりかえっての感想を参加者に聞いて、第2回の研修を終える。

- 積極的に自分を出せなかったのが最後にマイクをとった。
- やっている時は何を目的に？だったけど、流れを見てわかった。
- 交流ができてよかった。
- 何とか時間をやりくりして来た価値があった。
- ここ何年間で久しぶりに楽しいなあという感じを受けた。
- みなさんにありがとうと言って帰れる自分が幸せ。
- 9月に向けて着々と準備が進みつつあるなあと感じ、目的が理解できた。

5 第2回ふりかえりシート

第2回の研修を終わったあと、参加者に書いてもらった「ふりかえりシート」結果を示します。ふりかえった項目（掲載分のみ）は次のとおりです。

文章を完成させる形で、研修をふりかえってみてください

- 1 わたしが気づいたことは…
- 2 わたしが大切だと思ったことは…
- 3 わたしが嬉しかったことは…
- 4 わたしががっかりしたことは…
- 5 わたしがこれから実行しようと思ったことは…

(1) 気づいたこと

「わたしが気づいたことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。

◆ 具体的回答

- いつかこのようなことを韓国でもやってみたいと思いました。
- アクティビティを自分が参加者の立場で経験しておくことは重要である、ということ。
- 貧困の構造と自分がそれに対して必ずしも否定的にとられていなかったということ。
- 「流れ」のあるプログラムの「流れ」という意味。
- ただ単に、参加型が重要であると考えていましたが、講義型と参加型のメリット、デメリットを考えることで、両方を活かす大切さに気が付きました。
- 「開発」は、自分の内発的な行為だということ、主体的に取り組めることが大事だと思いました。
- 皆さん、色々と自分の職場等で頑張っていること。開発教育は日常生活から飛躍していると感じる日本人が多いが、ここの参加者はとても身近に感じている。
- 学校の先生も、開発教育に興味を持っている方がたくさんいるんだということ。
- プログラムの分量、時間配分のむずかしさ。
- いつもねらいをはっきりさせないと、やっていることがわからなくなってしまう。
- 共同作業をすると自他の性格等がわかる。20年後の未来が、以外と予測できなかった（こうありたいも含めて）。
- シミュレーションゲームを通して世界の不平等さを少しだけでも具体的にイメージできた。
- ワークショップの「重さ」「軽さ」を考えることの大切さ。
- 頭では分かっているつもりでも、「貧しさ」というものが一体どういうものか、「豊かさ」というものが一体どういうものなのかということが、自分のこととしてまだまだ身につけていなかったということ。
- 「開発」は、主体的にするもの。
- 豊かさと貧しさか？わかっているつもりか？コーヒー栽培のシミュレーションゲームで？貧しさからの脱却か？いかにむづかしいか？無知の恐ろしさを実感した。
- 「貧しさ」と「豊かさ」は表裏一体であるということ。
- まず、自分の家族・地域・教室で始めようと思ったこと。コミュニケーションは意識してとることが大切。
- ワークショップの意味。
- シミュレーションで相手の立場がわかった。
- 共通の悩みを持つ仲間が多い。
- 流れをプログラムに持たせることで、興味（参加者の）を続けさせることができる。目的を持たせることで終わったあと参加者個々の意義がじんわりよくわかる。流れがあることで気づきが大きい。
- 地球には解決すべき問題がたくさんある。
- “開発”って本当にわからないということ。
- “もったいない”ということ。こんなよい機会を提供してもらえていい。ありがとう。ワークショップで使う物がみんな新品で上質。うーむもったいない。
- 参加体験型学習の有効性。
- プログラム作成の難しさ（時間と深まりのバランス）。
- この研修の意義を理解する人が多いけど、地方へ散ると少ない。
- 「豊かさ・貧しさ」日頃じっくり考えることのなかったことを、ワークショップを通して広範囲に実感した点。また、それに関する手法など。
- この研修会が中級だということに改めて気づいたこと、さすがに参加者も研修の流れにスムーズに乗り、レベルの高さを感じた。
- 何かに怒りを感じている。

(2) 大切だと思ったこと

「わたしが大切だと思ったことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。

◆ 具体的回答

- 自分の意見や考えを他人に押し付けません。話し上手もいいのですが、それ以前に聴き上手になるのも大事だと思いました。
- 安心して自分をオープンにできる雰囲気づくり。相手を否定するのではなく、肯定的に妥協点を探すこと、意見を調整すること。
- ものごとを深く考える（適当に流さない）広い視野と知識をもつ。
- 「ねらい」を定める。
- 授業作りの計画についてです。特に参加型12の手法をうまく利用することが大切だと思います。
- 「流れ」。
- いろいろな場での教育の力（家庭や地域での人とのふれ合いも含めて）が社会を動かす原動力になると思いました。
- 教員の方、自治体の方、ボランティアの方など、色々な活動をしている方から話をきくこと。
- この輪をつなげていくこと。
- 目的をもって参加することの重要性。
- ねらいをはっきりさせること。
- 人の話しをよくきくことで、グループ作業が楽しくなる。
- 「本当の意味での開発」を考えていくことが大切。
- 深く考え、整理しておくことの大切さ。
- どんな人（企業）でも、相手のことを考えて、自分が行動しなくては、世界がよくなっていかないので、もっともっと考えることが大切だなと思った。
- 話しあいと情報共有。
- コミュニケーションの大切さ、知るといふ事の大切さ。
- プログラムの「流れ」についてさまざまなことを配慮しなければならないのだと思いました。
- 人の考えや意見をじっくり聞いて考えること。
- コミュニケーション。
- ふっと気がゆるむ（ちょっと楽をしようかなと思う）自分をコントロールしつづけること。
- いろいろな手法のねらいを見つけること。
- 人とのつながり。
- 流れの中で、コミュニケーションを持つこと。前向きなコミュニケーションを持つこと。
- いろんな人々の考えを聞き、多面的に考える。
- まずは途上国の現状を知ること。
- みんなでやるとすごい！！ということ。1つの意見が全体の中ではちゃんと“1つ”として意味をもつこと。全体から刺激をうけること。1つの入口から広いものが見えるきっかけになる。
- 気付きを行動へつなぐプロセス。
- 多様な意見を表明でき、受け入れられる場。
- 中部JICAセンターは、静岡・和歌山と範囲が広すぎるのでもう少しセンターを増やしたらもっと身近になれる。
- すばり、「行動連携」。「感性育成」。⇒ヒューマンコミュニケーションの確立！
- 個人的に、独りよがりではなく、こうした研修会でノウハウを実体験する。
- 言葉に出して共有する。答えをもとめるがもとめない急がない。

(3) 嬉しかったこと

「わたしが嬉しかったことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。

◆ 具体的回答

- たくさんの人に出会い、様々な考え方に触れながら今の自分のありの姿や行動を映してみることが出来ました。
- グループワークが本当にのびのびできて楽しかった。
- いろいろな人と話ができたこと。
- たくさんの人と知りあえたこと。
- 何とかついて行けた。
- 様々な年代の人と、豊かさや貧しさについての考え方を交流し合うことができ、新しい気づきがあったことです。
- 交流の機会が多いこと。
- 先生とたくさん話ができた。
- 参加者の人ととても親しくなれた。
- 出会い。
- 「一人ひとり並んでいる順番に意見を述べてください」というような強制されることが一度もなかったのが嬉しかった。
- 前回お話できなかった人との輪も広がった。
- 開発教育の広がりの可能性。
- たくさんの方の意見を聞くことで、新しい考え方が今回も吸収できたこと。
- 開発教育の意義がたくさん見い出せたこと。
- ここに来て色々な方と知り合えたこと。
- 今回も、本当にたくさんの方のことを学べたこと。
- みんなと仲良くなれたこと。
- 前よりもリラックスして話せた。全体の雰囲気も柔らかかった気がする。
- いろいろな気付き。
- どんどん輪が広がっている。
- 方法論が少しわかった。
- いろいろな人々と話し合えたこと。
- この研修に参加したこと。
- 仲間（同志）がいるということ。心強くなった。みんなでやれば広がる。深まる。疑問がわく。
- 楽しく学べる手法を知ったこと。大切な資料がたくさんいただけたこと。
- いろいろなワークで前回とは違った人々と語り合えたこと。
- 同じ事を考えている、ちがう意見もある事を実感した。
- ①所長さんと交流のきっかけが出来たこと。②白日さんの温かい人柄に触れさせていただけたこと。③若い世代の共感者に出会えたこと。④JICA国際協力推進員の方の本音に少しずつですが共感姿勢が小生の心の中に発見できた点。
- 国際理解教育、開発教育に関心をもつ仲間たちが目を輝かせて、パワーフルに活動している状況を開き、エネルギーをもらえたこと。“ノミネーション”によって、仲間が増え人間関係を深められたこと。
- まわりにいる人とお互い共感できたとき。

(4) がっかりしたこと

「わたしががっかりしたことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。なお、「ない」という回答は割愛しています。

◆ 具体的回答

- 自分の意見や考えがより多く通ってほしいと思い、他人に押し付ける人を見ているとがっかりしてしまいます。しかし、自分のことに自信を持っている日本人がこれだけ集まることはそんなにはないと思います。たくさんのパワーをいただきました。
- 豊かさ、貧しさについて考えたとき、出てきた言葉はわりと予定調和的(?)だったこと、あまり「ハッ!」とはしなかったかも…
- まとめて人に伝えることが苦手ということ。
- ちかちゃんのプログラム、最後の部分で、似たようなワークショップをやったことのある人が、「先に参考として…」と話し出してしまったこと。
- 昨日休んでしまったこと。
- 5番目のプログラムで、グループ内の話し合いが十分にできなかったことです。
- 開発教育に深く関わっている方の意見が強くなること。
- むずかしいワークショップなので、ワークショップをこなすことが精一杯で深いところまで考えられなかった。
- 次回自分にプログラムが作れるかどうかととても不安です。
- 少し時間が足りなかったかな?
- 忙しい毎日で、この2日間疲れた状態で参加してしまったこと。
- 疲れた自分の体力のなさ。
- 自分で思っているより自分は何もできていない。
- 貧しさなど一筋縄で解決できない問題を解決できないのがもどかしい。
- 遅刻してしまったこと。
- 時間がなくて質問ができないこと。
- 自分の知識不足。
- 前回より人数が少ない(ように感じたこと)。
- 生産-消費-お金のケイザイに変わるものがみつからない。

(5) 実行しようと思うこと

「わたしがこれから実行しようと思ったことは…」という文章には、具体的には次のように書いています。

◆ 具体的回答

- まずは、風の噂に聞いたJICAの韓国版に当たる‘KOICA’という組織について調べます。
- もっと手法をいろいろ調べる、体験する→その上で紹介する。
- ものごとをもっと深く考える。
- JICA国際協力出前講座をからめたプログラムづくり。
- 授業でクイズを行うと考えているので、内容を考えます。
- 内容をまとめて、JICA専門家OB会の資料にしたい。
- 自分の学級や学校、家庭で、貧しさと豊かさについて、積極的に話し合い、考えていきたいと思っています。

- もっと勉強します。
- 自分の授業をつくること。
- プログラムについての予習。
- プログラムをきちんと作りたいと思いました。
- 「開発」の意味を深めるためにも、視野を広げるためにも人と関わる仕事をするためにも、まず協力隊の二次に合格しなければ！と思いました。
- 「流れ」を考えた講義。
- 今回のプログラムを、子どもたちに対してどのように実践していけばいいかを積極的に考えていく。
- ファシリテーター。
- 身の周りを見わたして、まず、出来ることから！！
- まだまだやりたいと思うことを実行にうつせない段階です。これからたくさん勉強して、自分流開発教育を身につけたいです。
- 子供たちが、自分の持っている可能性を広げる手立てを考える。
- あせらずじっくり自分のペースで。
- 8,000もあると言われたワークショップの手法のいくつかを、具体的に知るために資料を探す。
- さまざまなトレーニング。
- ファシリテーターになれるようがんばる。
- 日々の生活の中で、ファシリテーションのスキルを使える点は多々あると思うので、開発教育と上段にかまえなくても、スキルは向上できると思います。意識して行動したい。
- 様々なワークショップに参加し、勉強し、技を盗み、自分も実践してみたい。
- 今回の研修の中でやったシミュレーションゲームを工夫して学校で行う。
- 単発ではない単元づくりをすること。カリキュラムづくりと単元づくり、教材づくりをしていかないと広がらない、やってみようかなという仲間ができない。今年必ずやりたいこと！
- 参加体験型学習の実践の場を創出すること。
- 自分（協会）が行っていることを多くの人に伝え、巻き込みを図る。
- 自分なりに深め、回りの人に意識啓発したい。
- 限定されたカリキュラムの中での取り組み企画。
- 研修の実体験を高校の授業で参加型の授業や開発教育の素材を取り入れていきたいと思います。
- 話し合うことも大事、自分の技を黙々と磨くのも大事。

以上

V. 第3回 開発教育指導者研修の記録

第3回の研修の概要を示すとともに、以降、「プログラム」の流れに沿って、研修の詳細とその成果の記録を示しました。

第3回研修の概要

1

「ワークショップとファシリテーター プログラムを作ってみよう！」

◆ 日時・場所

- ・ 日 時：1日目 平成15年9月6日（土）13時～18時
2日目 平成15年9月7日（日）9時30分～15時
- ・ 場 所：JICA中部 講堂

◆ 参加者・ファシリテーター

- ・ 参加者：49人（教員・教育委員会28人、NGO・NPO3人、
自治体・国際交流協会6人、JICA関係者11人、学生・一般1人）
- ・ ファシリテーター：NIED・国際理解教育センター 代 表 山中令子氏
- ・ サブファシリテーター： " 研究員 田中千賀子氏

◆ ねらい

- ・ 体験を経験につなぐ、気づきを行動へとつなぐ参加型の方法論やプログラムの作り方を理解し、自らも参加型で進める開発教育／国際理解教育のプログラムを実際に作ってみる
- ・ 参加者それぞれが、次へつながる具体的な目標とプログラムと効力感を持ち帰る
- ・ ファシリテーターの役目とファシリテーションのポイントを、体験を通じて理解する

◆ プログラム

★セッション1：導入

- 0 JICA TIME 「築く」
- 1 本日のねらいの確認
- 2 今までのふりかえり わかったこと・もっと知りたいこと

★セッション2：参加型のプログラムづくり

- 1 参加型のプログラムづくりの準備
- 2 プログラムを作ろう！（7つのグループごとに）

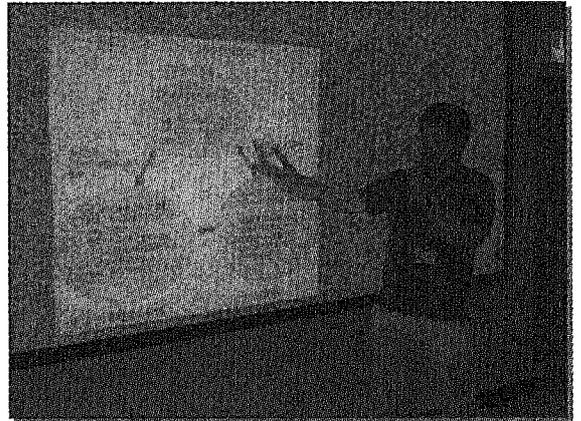
★セッション3：プログラム発表から次へのステップ

- 1 プログラムづくりの続き
- 2 プログラム発表会&提案会
- 3 ファシリテーターにとって大切なこと
- 4 あなただけにラブレター
- 5 「今日から私が実行しようと思うこと」宣言
- 6 全体ふりかえり

(1) JICA TIME「築く」

◆ JICA中部 磯貝白日さんから

- 「築き」をテーマに、①JICA中部にとっての開発教育、国際理解教育支援事業とは？、②何を目標として取り組むのか？（平成15年度を中心に）、③開発教育指導者研修と実践講座について、④具体的な動きと事業紹介を、パワーポイントを使いながら、説明する。
- 詳細は、本報告の巻末の資料を参照。



▲ 磯貝さんの発表

(2) 本日のねらいの確認

◆ 第3回のねらいの確認

- 「第3回研修の概要」に示したねらいについて、当日配布したレジュメを見ながら、確認した。

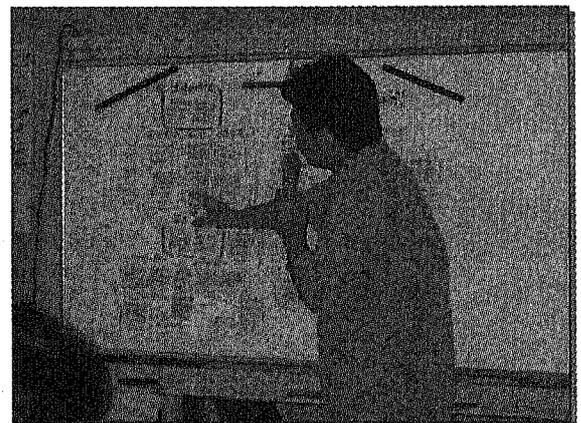
(3) 今までのふりかえり わかったこと・もっと知りたいこと

◆ 今までの成果物の再確認

- 壁に張り出された成果物→第1回目と第2回目、「国際理解教育・開発教育は何のため？」を各自確認する。

◆ わかったこと／もっと知りたいこと

- 次のことに関して、各自30分間自由につかって1人で考える。
 - ① 20年後の望む社会を実現するために大切なこと（第1回成果物）の中から、自分が大切だと思うことを3つ選ぶ。
 - ② 今までを通して、自分の一番の発見は何だったか？
 - ③ 今までをふりかえり、自分のもっと知りたいこと／知りたくなったことは何か？
- その後、6～7人グループを作る。その際、いままで話したことのない人、ジェンダーバランス、年齢バランスを考え自主的に作る。
- グループになったら自己紹介。お題は「もしも明日地球が最後となったら最後の夜ごはんを誰と何を食べたいか？」。
- 話す順番は、着ている服の色が白の人、複数いる場合は名札の名前が「あ」に近い人から時計回り。



▲ 全体でのもっと知りたいことの共有

◆ 「もっと知りたいこと」の情報交換

- 20分間グループ内で全員が知りたいことを出し合い、グループ内で答えられる人がいたら答える。
- グループ内で答えられなかった「もっと知りたいこと」をカードに書き出し、分類整理する。
- この問に対しては唯一の答えがあるわけではないので、今後みんなで考えていきたい。

★経験したい！

- もっと多くを見たい知りたい経験したい。
- いろいろな体験を通して根本的な事（物質の豊かさ・不平等さ）に共に気づきあいたい。

★自分は何をすればいいの？

- 自分に何が足りずどんな力をつけていけばいいのか。
- 一人ひとりができること、私にできること。

★世界の課題と私

- 世界的な問題と日常的な問題とのつながり？
- 各国が抱えている課題、世界の課題→知識。

★多様性を認めること

- 人と人とがどうやって分かり合えるか？やはりそこに戻って考えたい。
- 多様性をどうやって認め合い共に暮らしていくのか。

★負や悪の感情の扱い方

- 人のマイナス感情はどこから（どうして）生まれるか？負もしくは悪とされる感情について。
- 生まれた人のマイナス感情はどう処理すればよい方向に向かうか？解決するか？（悪い結果を生まないために）

★豊かさ・幸福の追求について

- 利便さによって失われない豊かさをつくるためにはどうすればよいのか？
- どうすれば「幸せ」を感じ生きていける人たちが増えるか。
- みんなが幸せに暮らせる世界が存在するのか？
- 価値観の激変による混沌とした社会は一体どこへ落ち着くのか？

★具体的な方法

- 具体的な手法の進め方／ファシリテーターとしての立案、プログラム発表方法など。

★気づきの方法

- 意欲・関心の低い人にいかに「参加型」のテーブルについて発言してもらえばよいか。
- 関心のない人に楽しく分かりやすく知ってもらうには？
- 相互理解の大切さをどう子どもも伝えるか。
- 無意識でしてしまう「ステレオタイプ」「刷り込み」「先入観」への不安を解消する方法・コツ
- いろんなタイプの人が楽しく参加し学ぶ方法。

★築き・行動へとつなぐ方法

- 気づきを築きに変えるパワフルな方法。気づきを継続的な行動につなげるには。
- 地域での開発教育の進め方、多様な組織がばらばらに活動している→ネットワーク化。

★学んだことの活用方法

- 学んだことを活かすには自分の今いるところで応用するには。
- 教員以外ではどのような場で活用できるか。
- 大学での開発教育分野の設置。
- 教育現場での開発教育の活かし方、どの時間？
- 開発教育で学習した事を小学校の国際理解教育の中で具体的にどう取り入れていくか。

★その他

- 開発教育に心理学的に有効な手法・アプローチを取り入れていきたいがアドバイスを！
- 海外ではどのような開発教育がされているのかな？

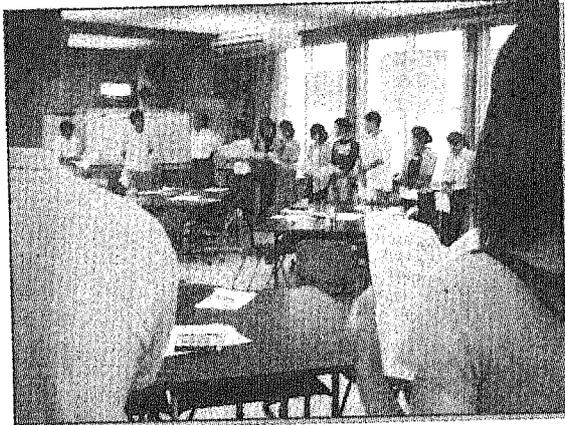


セッション2：プログラムづくり

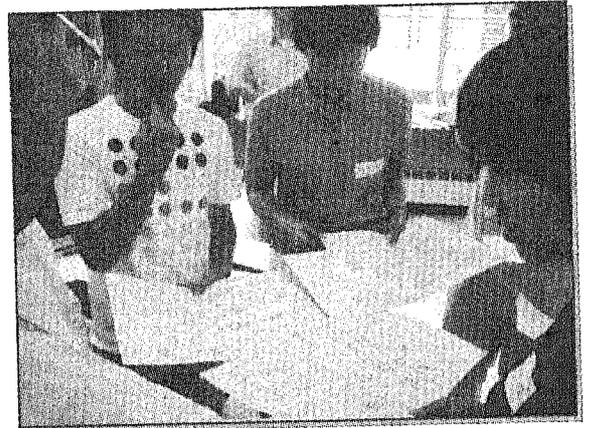
(1) 参加型のプログラムづくりの準備

◆ 作りたいプログラムに対する各自の考えの共有とグループづくり

- 育みたい力／扱いたいテーマ／伝えたい情報／地域を各自で裏紙に書いてもらう。
- 全員円になって、書いたことを発表し、自分と共通点のある人、共感するという人を覚えておき、その後会場内でグループづくりを行う。



▲ 全員輪になって各自の考えをアピール



▲ 同じような考えの人が集まる

- その結果、次の7つのグループが出来た。

- ①むかし話系 ②環境系 ③共生系 (小学生)
- ④在日外国人と多文化共生 ⑤異文化理解 (高校生) ⑥静岡系 ⑦共生系

(2) プログラムを作ろう！(7つのグループごとに)

◆ プログラムづくり

- 次の項目について考え、模造紙に成果をまとめる。

- ① テーマ / ② ねらい / ③ 対象 / ④ 時間 (回数) / ⑤ 流れ (起承転結) /
- ⑥ プログラム / ⑦ 進行上の注意点 / ⑧ 準備物

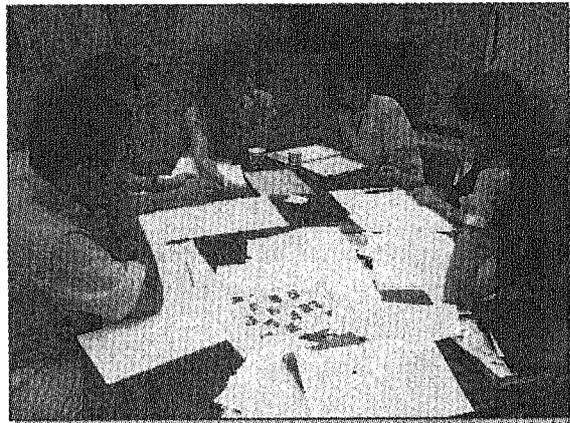
- 「ねらい」：誰に何をどのように伝えるためのワークショップなのか？
- 「参加型で伝える 12 のものの見方・考え方」を参考にメリハリある展開を。
- 会場に展示した冊子を参考に。
- 本だけではわからないという人は、リソースパーソン (NIED 研究員) か山中に聞いてもらってよい。
- プログラムづくりは、起承転結のストーリー作り＝流れのあるプログラムを。
- 本当に伝えたいこと、考えて欲しいことは何か？ 煮詰まったらねらいに戻ろう！



▲ グループ：Talanoa (タラノア)



▲ グループ：Coracao



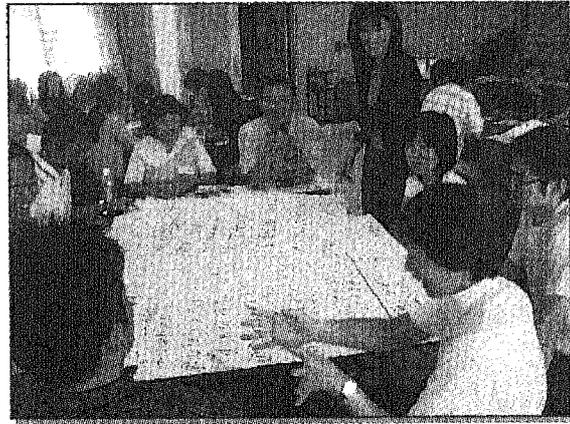
▲ グループ：ほんとにやるぞ〜チーム



▲ グループ：じゃい子 Jaico! ジャ行こ!



▲ グループ：ありがたや



▲ グループ：山中派



▲ グループ：茶〜美



▲ 参考資料を自由に見られるようにする